

野鳥の聞きなし

首藤 静夫

緑滴る夏、森でも公園でも耳をすませば鳥たちの鳴き声。カラスやスズメ、ウグイスは誰でも声だけで分る。メジロはどうか。名前は知っているが声は、という人が多いただろう。ヒヨドリとなると名前もあやしくなる。これらは住宅地で見かける鳥だ。鳴き声を覚えるには聞いて馴れるしかないが、鳥の聞きなしを知っておくと便利だし、興味も広がるだろう。聞きなしとは鳴き声を人の話し方に真似て覚えることだ。有名なのでは、トッキョキョカキョク(ホトトギス)、一筆啓上仕り候(ホオジロ)など。実際にはもっと早く短く、こんなに間延びしていない。ホトトギスでは(キョッキョ)キョキョキョ、ホオジロは聞きなしの三倍速くらい、イッピツが聞き取れる程度だ。

自分で創るのも面白い。私の場合は例えば、ドシラソファミレド(アカシヨウビン)、プリティプリティ(クロツグミ)、・・・チビリ(イカル)、ツイツイギー(ビンスイ)など。他人に分らなくてもいい、自分はこれが覚えやすいというもので十分だ。似ている鳥の聞き分けは厄介だ。住宅地で目にするシジュウカラ、羽が青みの灰色でV字模様入りの綺麗な鳥だ。白いお腹に濃紺のネクタイがある。この鳴き声がツツピー、ツツピー。山に多いヒガラはネクタイがないだけ、あとはシジュウカラにそっくり。これがツツピイツツピイと早口だ。ヤマガラというのもいて、これはノンビリと鳴く。

他の鳥の鳴き真似が上手なものもある。コマドリ(駒鳥)はビビビヒンと馬の様に鳴くが、コルリが真似をする。ヒヒヒヒ・ビビビヒンと前奏があるのでそこで聞き分ける。

毎年夏になると戸隠や妙高の鳥を見に行く。近年種類も個体数も少なくなり淋しい。二十年前の戸隠ではカッコウやキビタキがいい声で出迎えてくれ、林道に入るとホトトギスやミソサザイ、アオゲラ、各種のカラ類でそれは賑やかだった。

今年の探鳥旅行はまだであるが、昨今人出が少ない分、鳥たちが復活してくれていると嬉しい。